

皆さま、こんにちは。

府中教会、アンドレアです。

本日の福音朗読は、二週間の物語の続きですが、イエスの代表的なガリラヤでの働きの日を描いています。すなわち、マルコによる福音第一章は、イエスが神の国を宣言し、弟子たちに呼びかけ、権威に満ちた説教をし、汚れた霊を男から引き離し、大勢の病人をいやし、悪霊を追い出すなどして、忙しい日を過ごしながらも、朝早く人里離れた所で祈っておられる様子を描いています。

ところで、私たちが今日の朗読で注意しなければならないことは、イエスによって行われた数々の奇跡やイエスの忙しさではなく、イエスご自身のこのように非常に忙しい宣教活動を生かし、支えていたその精神、つまりイエスの福音宣教への強い使命感についてだと確信します。

つまり、イエスの一日は夜の祈りで結ばれ、この祈りが新たな活動の始まりになります。イエスにおいて祈ることは、活動の終着であると同時に出発であり、祈りを目指して行い、祈りから行いが生まれるのです。ところで、祈りは、神に「ついて」話すことではなく、神「と」話すことなのです。祈りは神との繋がりです。神に信頼し、尊敬し、しかも友が友と結ぶような人格的繋がりです。要するに、祈りという神との結びは、神に感謝し、神を愛し、神をよりよく知り、こうして喜んで、愛の内に、真実に生きるための結びです。

